

家族会通信	【幸の会事務局】
幸の会 R 元年 8 月	加賀市小菅波町 121 番地 1 (加賀こころの病院内) 加賀市南郷町 3 乙 4 (加賀のぞみ園内) 加賀市山中温泉滝町リ 1-1 (たきの里内)

令和元年度総会・懇談会の報告

厳しい暑さが続いています。皆様いかがお過ごしでしょうか。

今回は、7月27日(土)に加賀のぞみ園で行われた総会と懇談会のご報告をいたします。

総会では、平成30年度事業報告・決算報告、令和元年度事業計画案・予算案、役員案の審議を行い全議案が承認されました。



会員からのご意見やご質問では、会員数が年々減ってきていることを心配される声がありました。新しく入会される方もいますが、病院を退院されたり、ご家族の方が亡くなられたり等の理由で退会される方のほうが多くなっています。最近では、会員以外のご家族の方々にも定例会の開催のお知らせをしており、たくさんの方が参加されています。今後はそのの方々にも幸の会への入会をお勧めしていきたいと思っています。幸の会がご家族にとって気軽に集える場となり、知り合った方々とのつながりが皆様の心の支えになったり、日々の生活の活力になるように、その輪を少しずつ広げていきたいと思っています。



総会後の懇談会では、今年4月より加賀のぞみ園の園長に就任された西尾眞友先生をお招きして、会員と非会員の方、施設の職員を含めて21名の方が参加されました。

西尾先生は、大学に勤務されていた頃から当直医として長らく加賀こころの病院にいらしていました。介護保健施設に勤務されるのは初めてで、まだ4月からの短い期間ですが、ご本人やご家族の方の想いを聴いたり、一生



にしお まとも
西尾 眞友 園長

懸命ケアをしている職員の姿を見ている中で学ぶこともたくさんあるとのことでした。また、当法人には病院や施設など、関連するたくさんの介護サービス事業所があり、それぞれの事業所同士でも相談しながらより良い支援ができるように連携してしていきたいというお話がありました。

皆様それぞれに生活背景や事情の違うところもあり、加賀のぞみ園での看取りケアを希望されて最期を迎えられる方もおいでますが、皆様のご意向をお聴きしながらタイミングをみて在宅復帰を支援していくことも目指していきたいというお話もありました。

加賀のぞみ園は、老人保健施設として在宅復帰を目指してリハビリを行っていくための機能と役割があります。病院は治療の場として病気を治す、あるい

は症状を改善するという役割があり、たきの里（特別養護老人ホーム）やグループホームは安心して暮らせる生活の場としての役割があります。ご自宅で生活されている方も、ご本人が少しでも快適な環境で生活ができるように、ご本人の状態やご家庭の状況に合わせて様々なサービスを利用されています。ご本人がどんな環境で生活されるのか、そしてその生活にご家族や職員がどうかかわるのかはご本人が安心して暮らせるためには重要なことです。「たきの里」や「グループホームやたの」の職員からは、これまでのその人の生活が施設に移ることで途切れないように、これまでの生活も大切にしながらかかわっているというお話がありました。

それぞれの施設の機能や役割について、皆様と施設職員が情報を共有してお話をしていくことは、ご本人とご家族の方にとってより良い生活を考えるためには必要なことです。幸の会でも、いろんな形で皆様と施設職員と一緒に話し合ったり、考えたり、学べる機会をつくっていきたいと思っています。





懇談会での皆様からのお話を少しご報告をさせていただきます。

加賀こころの病院に入院している方のご家族より、「いまは歩くことができなくなり介護が必要なため退院しても自宅ではみれない。これからどうしたらいいのか不安がある」といったご家族の気持ちが聞かれました。また、たきの里やつかたにに入所していた方のご家族より、今は加賀こころの病院に入院して治療を受けており、いざというときに同じグループの病院でみてもらえると家族としては安心できるというお話がありました。皆様も退院後にまた施設に戻れるのだろうか、どこにも行くところがなくなるのではないかと不安を感じることもあると思います。病院やそれぞれの施設の相談窓口では、ソーシャルワーカーやケアマネージャーが皆様のお話を聴いて受け入れ先を一緒に考えてくれますのでご相談いただけたらと思います。

加賀のぞみ園に入所されている方のご家族より、「一人暮らしをしていた時は、認知症もあり一人で生活できなくなっていた姑だったが、入所してから元気に歩けるようになり、社交的にもなってびっくりした」と生活環境を整えることでその方が持っている力を発揮して生活ができるようになってきたことや、「入院していた時は元気がなかったけど、入所してからはいろんな人とのかわりが増えたからか、周りの環境からいろんな影響を受けたことが良かったの

か笑顔が見られるようになった」とご本人を取り巻く環境や人とかかわることの大切さを感じているといったお話がありました。それでも、ご本人の状態が良くなったからといって、またご自宅で生活をするとなると不安があり考え難いということも話されていました。

小規模多機能ホームを利用されている方のご家族より、ご本人が「お金を盗られた」と不安になると大変なこともある。でも、できる限り本人の気持ちを大切にしたいという思いから自宅での生活が続けられるように相談しながら介護をしているというお話がありました。

グループホームで生活をしていて、いまは加賀のぞみ園に入所しているという方のご家族より、ご本人が認知症の病気になって 10 年が経った。病気になってから被害妄想があり怒られてばかりでしんどい思いをしてきたけど、最近やっと月に 1 回は面会に行けるようになり、本人と一緒にいても笑顔が出るようになってきたということでした。長い時間をかけてかかわり続けてきたことでこじれていた家族の関係が少しずつ改善されてきたというお話がありました。



皆様のお話をお聴きして、西尾先生よりご家族の皆様の存在があって初めて施設が成り立っていることを実感しているというお話がありました。最後に、西尾先生から『ご本人やご家族の方から「こうして欲しい」、「こうだったら安心できる」という声を傾聴して、良いところばかりではなく悪いところも言い合える信頼関係をつくっていききたい。そして、皆様が当法人に関連するどの施設を利用していても、これからの生活が不安だということにならないように支援できるシステムづくりが大切です。職員も努力していきますが、皆様もご家族としての役割をきちんと考えて一緒にかかわってほしい』というメッセージをいただきました。



今回の懇談会では、皆様が日ごろ誰かに話すことがあまりないようなお話をされていたと思います。ちょっと聴いて欲しいことを誰かに話せると気持ちが軽くなったり、いろんな経験をしているご家族の方のお話を聴くことで少し前向きに考えられたり、元気づけられることもあります。今年度は、このような機会をたくさんつくっていただけるように、皆様のご意見やご要望をお聞かせいただき、たくさんの方の協力もいただきながら会としての活動を考えていききたいと思っています。